

第23回へブンアーティスト審査会 審査講評

第23回へブンアーティスト審査会の席上でのコメントを紹介します。審査の基準がよく分からない方や、今後自分のどこを改善し、どこを伸ばせばよいか悩んでいる方にとって、これまで見えていなかった視点を示す光明になれば幸いです。

これからへブンアーティストとして活動される方、審査を受ける予定の方、パフォーマンスアートや音楽演奏の道を志す全てのアーティストに対し、さらに技術や魅力を伸ばしてほしい、また、既存の枠や殻から突き抜けてほしいというメッセージを込めています。

(審査について)

「へブンアーティスト審査会」も今回で23回を数え、21年目を迎えました。

今回は、パフォーマンス部門104組、音楽部門69組の合計173組の応募がありました。

一次審査では、応募者が提出した動画を視聴し、魅力や独創性、将来性を感じ、観客を前にした実演を実際に見てみたいと思われるアーティスト（パフォーマンス部門32組、音楽部門12組の合計44組）を一次審査通過者として選定しました。

二次審査（公開審査）は、東京芸術劇場の劇場前広場で、観客の前で約15分の公演を行ってもらい、その様子を審査しました。

(審査講評について)

実演を見た直後に行う審議であがった、審査の基準や評価の考え方の参考になるようなコメントを部門別に紹介します。

■パフォーマンス部門

合格点に達したアーティストの評価できる点

- 技のレベルが非常に高く、動きにキレがあってぶれない。安心して見ていられる。
- コンビの掛け合いのバランスがとれている。衣装と道具の色も合わせていて、全体的にまとまりがある。
- 異質な世界を立ち上がらせる力があり、演者の本気度を感じた。
- 衣装がカラフルでハッピーな雰囲気が良い。前回よりもまとまっており、練習の成果がみられた。
- トークや観客の巻き込み方が上手く、華がある。
- 全体的にまとまりがある。技術的にはやや不安定ながら、英語を交えつつ楽しくショーをしているのがよい。
- 身体をしっかりと使ってパフォーマンスをしており、オリジナリティやストーリー性もある。
- AIとの掛け合いがテンポよく、衣装や道具も作り込まれていて工夫がみられる。
- 落ち着きがあり、表情もよい。全体的にテンポよく進められており、ミスのリカバリーも

上手い。

- テンポがよく、スピード感がある。演目にアクロバットを組み込んで、上手く盛り上げていた。
- ビジュアルにインパクトがあり、見栄えがする。話し方も聞き取りやすく、足長の動きもよい。
- 技が安定しており、コンビとしてそれぞれのキャラクターが立っている。間のつなぎ方や見せ方も上手い。
- メンバーそれぞれのスキルが高く、コンビネーションもよい。ダンス、オペラ、歌謡曲等、バリエーションがあり、見ていて飽きない。
- 舞台のようなアーティスティックな雰囲気、思わず足を止めたくなる。音とパフォーマンスの雰囲気が合っている。
- 個々の実力が高く、見ていて安定感がある。ボールもエアリアルも、軽々とやっているように見える。
- 手際がよく、客の巻き込み方も上手い。会場全体を味方につけていた。
- 路面環境と相性がよくなさそうだったが、ジャンプ等の技も余裕で決めていて、レベルが高い。MCが入ることで分かりやすかった。
- 脱力系のキャラクターが面白い。ミニマムな道具を上手く使っており、見せ方も工夫されている。
- 腹話術、歌ともにクオリティが非常に高い。独自性があり、好感の持てるキャラクターなので、子どもウケもよさそう。
- 音に合わせたパフォーマンスの見せ方が上手かった。
- 見た人誰もが笑えて楽しめる内容だった。
- 色や造形のセンスがよい。どうなっていくのだろう？と期待を持たせる内容のバルーンショーを確立させている。

あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点

- あまり見かけない芸風なので、トークよりもパフォーマンスから始めるなど、全体の構成を磨くともっとよくなる。もうひとつ見せ場がほしい。
- 全体的にまとまっているが、個人のレベルにばらつきがある。
- クローズアップマジックをもっと大人数で、至近距離で観られる工夫や、内容にオリジナリティがほしい。
- 技はひとつひとつしっかり決められているが、衣装やパフォーマンスに、もっとオリジナリティがあるとよい。
- ショーのコンセプトがもう少しわかりやすいとさらによくなる。
- 造形のクオリティは高い。動きのメリハリや、観客との絡み方にもう少しパターンがあるとよい。
- デビルスティック中心にまとめている構成はよかった。全体の雰囲気にもう少しゆとりがあるとよい。後半ミスが多かったのも残念だった。

- 個々の技レベルが高いので、2人でのパフォーマンスがもっと磨けるとよい。ポージングがよくなるとさらに印象が変わりそう。
- 技術がハイレベルで、表現力も高いが、もう少しストーリー性のある展開や構成をつくるとさらによくなる。
- バルーンがモノクロからカラフルに変化するアイデアはよいが、内容がステージ向きなので、大道芸らしい掛け合いやトークが入るとさらによくなる。
- シルエットや雰囲気はよくできているが、全体的な動きにもう少しマイム的な要素がほしい。
- オリジナリティが高く、工夫が凝らされていた。前半の内容は勢いがあっただけに、後半に迫力が減ってしまったのが残念だった。

■音楽部門

合格点に達したアーティストの評価できる点

- MCが上手で演奏の邪魔にならない。耳なじみのある曲も入っていて楽しめる内容だった。
- 演奏・表現力ともに完成度が高く、大道で十分通用するパワーがある。
- 歌が上手で声も聴いていて心地よいので。大道で歌っていたら人が集まってきそう。
- 全体の選曲、また、オリジナル曲もよく、演奏レベルが高い。明るい雰囲気で楽しくさせられる。

あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点

- 声がよいので、もう少し歌のある曲を演奏してはどうか。MCは慣れた感じだが、少しゆっくりしゃべったほうがよい。
- 緊張からか声が出ていないようだった。演奏する曲と衣装が合っていない印象なので、ビジュアル面も工夫してほしい。
- 歌が全曲同じように聞こえた。
- ギターが上手で楽しそうに演奏しているのはよいが、MC力をつけるなど、さらに人を楽しませる工夫がほしい。
- 生音だったためボリューム感はないが、どこでもできるという意味ではよいかもしれない。音量のバランスが悪いように感じた。
- 演奏が上手く音楽性は高いが、MCの声が小さくマイクがないと届かない。野外での活動を考えるとエンタメ性に欠ける。
- 演奏も歌も上手で、よく勉強していることがうかがえるが、独自性などプラスアルファの要素がほしい。
- 衣装も工夫されており、大道芸としてコミカルな面を取り入れることはよいと思うが、あえて演奏に専念するやり方も検討してみてはどうか。

(全体総括)

第23回公開審査では、ベテランアーティストが結成したユニットや、若い世代も多数参加し、また、過去の審査講評を咀嚼して自身のパフォーマンスに反映して再挑戦された方もいました。こうしたアーティストの方たちが公開審査会という同じ舞台に立ち、切磋琢磨する機会となることを願いつつ、今回の講評も「あと一步頑張ってもらいたい」という期待を込めています。

今回残念な結果となった方も、再びチャレンジしてほしいと思います。

最後に、パフォーマンスアートや音楽演奏の道を志す全てのアーティストのさらなる飛躍を期待します。

ヘブンアーティスト審査会

審査委員長 森 直実

審査委員 (パフォーマンス部門) 芦部 玲奈、大久保 砂智子、乗越 たかお
(音楽部門) 梶 奈生子、松村 正人